

第 754 回 新潟医学会例会 (Zoom によるオンライン形式)

第 754 回新潟医学会例会を開催致します。
大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の参加を歓迎いたします。

ZOOM URL は新潟医学会事務局にメールでお問い合わせください。
日 時 令和 3 年 4 月 15 日 (木) 18:00~20:00

新潟医学会集会幹事

記

特別講演

1 : 18:00~18:30 座長 竹林 浩秀 先生 (神経解剖学 教授)

「リンパ管の発生と病態」

平島 正則 先生 (薬理学 教授)

リンパ管は血管とともに脈管系を構成して、細胞外液を効率良く運搬するからだのライフラインとして機能しており、様々な病態の発症や進展における役割の解明が期待されています。本講演では、リンパ管の形態学的特徴と機能について簡単に概説した後に、遺伝子変異マウスモデルを使ったリンパ管の発生と病態の研究と、リンパ管形成の制御機構を基盤とする治療開発の試みについてお話しします。

2 : 18:30~19:00 座長 竹林 浩秀 先生 (神経解剖学 教授)

「急性脳損傷に対する体温管理療法 (TTM, target temperature management)」

西山 慶 先生 (救急医学 教授)

救急集中治療において脳損傷後に発熱をしばしば認め、予後の悪化と関連している。体温 (脳温) を制御することは、細胞代謝および組織浮腫の減少・アポトーシスや炎症の調節・血液脳関門の障害抑制などにより脳損傷を抑制する可能性がある。本講演では、脳損傷に対する体温管理法 (TTM, target temperature management) を概観し、臨床実践のためのアプローチを明確にしたいと考えている。

3 : 19:00~19:30 座長 生越 章 先生 (魚沼基幹病院 副院長)

「他科との協働による骨軟部肉腫診療」

川島 寛之 先生
(整形外科・リハビリテーション学 教授)

整形外科が診療の対象とする骨軟部肉腫は、希少がんに分類される。一般的ながんに比べ、若年で発症することが多く、抗がん剤治療に抵抗性を示し、治療に難渋することも多い。四肢のほか、胸郭や後腹膜などの体幹部にも発生し、治療原則は手術による腫瘍の完全摘出であるが、薬物療法や放射線治療などが必要とされることもある。このような集学的治療を行うためには、他診療科との協働作業は不可欠となっており、本講演では実例を交えて紹介する。

4 : 19:30~20:00 座長 早津 学 先生 (顕微解剖学 助教)

「電子顕微鏡イメージングを身近に」

芝田 晋介 先生 (顕微解剖学 教授)

私どもが電子顕微鏡 (電顕) や光学顕微鏡 (光顕) を駆使して確立した最新のイメージング手法を紹介したいと思えます。特に超広域観察が可能な世界最速のマルチビーム走査電顕や抗体染色サンプルを光顕観察後に電顕に持ち込む免疫電顕法、別の場所にある電顕をリモート観察する手法など私達にとって日常的に用いる技術ですが、なかなかハードルが高い印象があるようで、世界中から解析依頼が来ていました。新潟大学の皆様にも電顕イメージングを身近に感じて頂き、最大限活用して頂きたいと思っています。

新潟県医師会生涯教育講座の認定を申請しております。

大 学 院 特 別 講 義

(連絡先)

新潟医学会事務局

TEL 025-227-2032

e-mail igakukai@med.niigata-u.ac.jp

第 755 回 新潟医学会例会 (Zoom によるオンライン形式)

第 755 回新潟医学会例会を開催致します。
大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の参加を歓迎いたします。

ZOOM URL は新潟医学会事務局にメールでお問い合わせください。
日 時 令和 3 年 5 月 20 日 (木) 18:00~20:00

新潟医学会集会幹事

記

特別講演

1 : 18:00~18:30 座長 五十嵐 道弘 先生 (神経生化学 教授)

「定量プロテオミクスが拓く細胞システム研究」

松本 雅記 先生 (システム生化学 教授)

システム生物学の目的の一つは、分子ネットワークの構造や性質の解析を通して生命システムの動作原理を理解することである。このような目的のためには、生命システムの機能素子であるタンパク質の状態変化を定量的かつ網羅的に計測する必要がある。そこで、われわれは、タンパク質の網羅的解析法である質量分析を用いたプロテオミクスに関する多数の技術開発を行ってきた。本講演では、これらの技術の原理やその応用例を紹介し、定量的・機能的なプロテオミクスを用いた基礎医学的な研究の現状を紹介したい。

2 : 18:30~19:00 座長 小林 隆 先生 (小児外科学 准教授)

「総排泄腔異常症の治療戦略」

木下 義晶 先生 (小児外科学 教授)

総排泄腔は胎生 4 週に発生し、胎生 5 週より尿直腸中隔によって頭側から尾側に二分されるが、この分化過程が障害された疾患が総排泄腔異常症である。出生直後から乳幼児期、学童期、思春期、成人してからも多段階の内科的・外科的治療を必要とする難病である。当院では 2018 年に疾患治療グループを立ち上げたが、全国的にも医療者と患者が一体となった臨床への取り組みや研究活動が進んでいる。現状と今後の展望について紹介する。

3 : 19:00~19:30 座長 上村 顕也 先生
(医学部医学科総合診療学 特任教授)

「小型魚類で明らかにする生老病死」

松井 秀彰 先生
(脳研・脳病態解析分野 教授)

パーキンソン病は原因不明の神経変性により運動障害など様々な障害をきたす神経難病である。本セミナーでは私達のこれまでのゼブラフィッシュ、メダカ、アフリカメダカを中心としたパーキンソン病研究、ならびにそれらをヒト疾患の理解へと結びつける私達の研究を概説する。さらに老化と加齢関連疾患の分離、異所性の核 DNA と mtDNA、をキーワードに、ヒトのその他の加齢関連疾患への手がかりを得ようとする私達の試みをご紹介します。

4 : 19:30~20:00 座長 高橋 直也 先生
(保健学科放射線技術科学 教授)

「CT の進歩と肺癌画像診断」

石川 浩志 先生 (放射線医学 教授)

CT は肺癌の画像診断において中心的な役割を担っており、過去 20 年ほどの間に、検出器の多列化により広範囲の薄層データ取得を可能にするとともに、逐次近似再構成法の導入により大幅な被ばく低減を実現してきた。本講演では、肺癌の画像診断における我々の取り組みについてこれらの CT の進歩を交えながら解説するとともに、実用化が始まった人工知能技術を利用した CT の画質改善や診断支援について触れる予定である。

新潟県医師会生涯教育講座の認定を申請しております。

大 学 院 特 別 講 義

(連絡先)

新潟医学会事務局
TEL 025-227-2032

e-mail igakukai@med.niigata-u.ac.jp